

## 第十五節 昭和十二年

### ① 職員その他（「任免関係原議綴」その他による。）

昭和十二年

一月十五日 書記筒崎謙斎、北浦大介、宮本純一、佐藤重吉、瀬

谷義広は臨時版画教室に関する事務取扱を命ぜられる。

三月十三日 助教授山崎覚太郎は塗装術研究のため本年四月一日

より満四カ月間フランス在留を命ぜられる。

同月三十一日 陸軍騎兵少尉、本校嘱託下村英時は本校書記に任命される。

四月六日 学術実地指導のため教授石田英一、助教授内藤春治、

書記宮本純一、講師鎌倉芳太郎、同斎藤幸晴、同白川一郎、同

関野克、雇武田寿は四月十二日より往復とも十六日間、三重

県、奈良県、京都府へ出張を命ぜられ、生徒奈良県下修学旅行

につき地方技師岸熊吉、奈良帝室博物館学芸委員新納忠之介は

臨時実地指導を嘱託され、同じく京都府下修学旅行につき京都

市立絵画専門学校教授入江幾治郎（波光）、地方技師安間立雄は

臨時実地指導を嘱託される。

同月十二日 校長芝田徹心、生徒古美術実地見学状況視察のため

四月十四日より十四日間、奈良県、京都府へ出張の申請許可さ

れる。

同日 中西次郎（昭和十一年油画科卒）は海の参考資料蒐集

に関する事務を臨時嘱託される。

同月十五日 講師富永惣一は自今無報酬となり、フランス語担任を免ぜられ、西洋彫刻史授業担任を命ぜられ、事務（教務課教務掛）を嘱託される。

同月十七日 新規矩男はフランス語授業を嘱託され、文庫課兼勤を命ぜられる。

同月二十三日 教授藤島武二は満州国出張を命ぜられる。

同月二十八日 教授岡田三郎助、同藤島武二は文化勲章を授与される。

五月一日 教授津田信夫は満州国および中華民国出張を命ぜられる。

同月十日 片岡照三郎は漆工部彫鏤実習授業を一学期間（毎週二時間）臨時嘱託される。

同月六日 生徒野宮演習に関し、地形偵察のため本間幸太郎、齋

藤幸晴、清水平吉は五月十一日より往復とも二日間、習志野へ

出張を命ぜられる。

同月十三日 教授香取秀真は私立帝国美術学校講師応嘱の件を許可される。

同月 講師小場恒吉は朝鮮総督府宝物古蹟名勝天然記念物保存会第三回総会出席を許可される。

同月十八日 助教授丸山不忘、内藤春治は学術実地指導のため埼

玉県下へ出張を命ぜられる。

同月二十一日 生徒野宮演習のため本間幸太郎、齋藤幸晴、清水

平吉は五月二十四日より往復とも四日間、習志野へ出張を命ぜ

られる。

同月二十五日 同じく教授兼生徒主事田辺孝次は五月二十六日より往復とも二日間、同地出張を命ぜられる。

同月二十八日 同じく本間幸太郎、齋藤幸晴、清水平吉は五月二十九日より往復とも四日間、丸山不忘、磯矢陽は同月三十一日より往復とも二日間、同地出張を命ぜられる。

同月二十四日 教授和田三造は欧米各国へ出張を命ぜられる。

同月二十七日 田辺孝次は欧州各国へ出張を命ぜられる。

同月三十一日より六月一日まで、学校長は生徒野営演習を視察。

六月十五日 生徒野営演習のため、本間幸太郎、齋藤幸晴、清水

平吉は六月十六日より往復とも四日間、広川松五郎、羽野禎

三、佐々木卓、森田亀之助に六月十八日より往復とも二日間、

習志野へ出張を命ぜられる。

同月二十三日 田辺孝次は朝鮮総督府より外国事情調査に関する

事務を囑託される。

同月二十四日 岡田三郎助、川合玉堂、藤島武二、結城素明、北

村西望、建島大夢、和田三造、香取秀真、南薫造、朝倉文夫、

清水南山、津田信夫（以上教授）、和田英作（名誉教授）、比田

井天来（講師）は帝国芸術院会員に任命される。

七月二日 生徒野営演習につき、本間幸太郎、齋藤幸晴、清水平

吉は七月六日より往復とも四日間、習志野へ出張を命ぜられ

る。

同月六日 同じく岡四郎、宮本純一は七月八日より往復とも二日

間、習志野へ出張を命ぜられる。

同月八日 教授高村豊周は多摩帝国美術学校（校長杉浦非水）講師応嘱の件許可される。

同月八日より九日まで、学校長は生徒野営演習状況を視察。

同月十七日 助教伊原宇三郎は朝鮮総督府学務局教育課教育会

および緑陰社主催洋画講習会に七月二十二日より七日間出張を

許可される。

同月 石沢正男、下村英時は第七回世界教育会議に際して開催

される日本画展覧会の事務を囑託される。

同月二十六日 講師正木篤三は美術研究所員に任命される。

八月二日 本間幸太郎は本校および東京音楽学校服務を免ぜられ

輜重兵第七聯隊長に任命され、陸軍歩兵大佐家所政信が後任と

なる。

九月十一日 川崎小虎、矢沢弦月、伊原宇三郎、小林万吾、田辺

至、北村西望、朝倉文夫、津田信夫、清水南山、海野清、高村

豊周、沼田一雅、六角紫水ら教員は第一回文部省美術展覧会審

査員を依頼される。

八月〜九月 支那事変に際し、生徒川西治男、田村巖、雨田正、齋

藤慶男、講師齋藤幸晴、囑託大江雄五、雇鳩ヶ谷敏治ら応召。

九月三日 山崎覚太郎は在外研究を了えて帰国。

同月二十四日 大峽秀栄は講師を囑託され、修身授業（一週一時

間）担任を命ぜられる。

十月五日 講師正木篤三は東洋文学授業担任、文庫課兼務を免ぜ

られ、東洋美術史授業担任を命ぜられる。

同日 島崎吉五郎は三十五円贈与される（十月一日ドイツ教

